

平成30年2月19日

平成29年度  
日本リハビリテーション専門学校  
第2回学校関係者評価委員会議事録

1 日時

平成30年2月16日（金）16:00～17:00

2 場所

日本リハビリテーション専門学校第二校舎3階

3 メンバー

委員：高田、古川、山下、近藤、綿貫、三沢

事務局：陶山、二瓶、工藤、近野、篠田、鈴木、深瀬、畠山

4 会議内容

以下議題に添って進行

【議題】学校関係者評価委員会

I. 過去5年（平成24年度～28年度）の国家試験合格率状況について

II. 過去6年（平成24年度～29年度）の学生募集状況について

III. 各学科の5年間（平成24年度～28年度）の退学者状況について

事務局 工藤

学校関係評価委員会を開始、まずは資料に添って説明。

<意見交換>

事務局工藤

退学率が上がってしまうと、総学生数が減少して経営上の収益がかなり落ちてしまう。現在、PT昼の教員が取り組んでいるコーチングが良いと感じている。面談を繰り返してやる気を出させる方法で効果が出ている。この取り組みに期待している。

事務局篠田

高田先生、大学では退学率はいかがでしょうか。

高田委員

専門学校と大学の決定的な違いは、専門学校はPT/OTになろうとして入学してくるが、大学の場合は大学というものへの憧れで入学してくる学生が多い。他の学部学科は再試験がなくレポートを書けば進級できる。そういう学生たちと一緒にサークルや生活を共にしている。PT/OTになろうというモチベーションが低い。転学科も増えている。それで卒業はできる。

事務局工藤

そういう学生に対してどのように国家試験勉強させているのでしょうか。

高田委員 補助教員制度というものがあって、学生6～7名を1人の教員が見ている。それである程度成績を伸ばしている。教員の人数も規定よりも少し多い配置となっている。大学は学生のモチベーションを上げるのが大変である。

事務局工藤 最近の日リハにおいては、文化祭も2日開催から1日開催になってしまった。自治会もほとんど機能していない状態である。学生の情熱が少なくなってしまう感があり、何をやるにしても難しくなっている。

事務局篠田 退学率はバランスの問題であるので、退学率を抑えれば国家試験や実習に影響が出てくる。一方、入学の時点で振り分けようとする、定員のノルマに響いてくる。出願者数が減っているということは学生の質も下がっている、それに併せて退学者も増えていくのだろう。ここ数年、PT 昼は入学試験において主に成績重視で合否判定していたが、そうなるとう入学後の成績が下がってきている。多少成績が悪くても、面接で元気よく「頑張ります」と言えるような学生もクラスの雰囲気として必要なのかもしれないと感じている。また、今の学生は自分の考えがなく他者に振り回さやすいので、昼間部では年長者はあまり入れにくい状態である。

綿貫委員 私たちの頃は、受験者が多かった時代であった。入学できない人も多かった。そういう振り分けによって、入学後4年間勉強していくことへの学力的な基礎体力のある人が入学していたと思う。今は出願者数が自体が減っている、そういった面の薄い人が増えているので、退学率が上がってしまうのはある程度は仕方ないのかなという印象はある。

山下委員 自分たちの時代にも退学する者はいたが、その人の人生を考えるとその方が良かったという学生もいたので、経営的な問題を除けば一概に退学が悪いこととは言えない部分もあるかもしれない。

近藤委員 どのような理由で退学になる方が多いのでしょうか。

事務局篠田 1年生の退学者では圧倒的に「入学してみたら違っていた」というのが多い。高校や両親から勧められてあまり分からず入学する者がいる。3～4年生での退学で多いのは実習がうまくいかない人である。最近増えているのは精神的なストレスで耐え切れず辞めていく学生がいる。AO入試では調査票の提出が内定後のため、高校生活に問題があることが事前には把握できないこともある。

高田委員            私の大学では成績等や出席状況など高校生活の活動状況がわかるものを  
出してもらっている。高校教員から学生に対する評価も少し書いてもらっ  
ている。

事務局工藤            大学では学費の滞納金が多いでしょうか。

高田委員            滞納金が多い。やはり親の収入が減ってきているのが影響している。2  
月頃と8月頃の半期納付になると毎回4～5人は滞納者がいて、助言教師  
から学生へ直接連絡している。

事務局工藤            日リハも以前に比べて倍くらい滞納金が増えてきている。中退して未払  
いがあると督促をしても払えない人も過去にいる状況である。

事務局篠田            そういう人でグループ校である臨床福祉校へ行った学生がいた。そうい  
う連絡をもらったことがあり、その人はその後卒業したようです。

事務局工藤            その人の弟か妹がその後日リハを受験した。

高田委員            私の大学から臨床福祉校へ行った人もいる。それまではほとんど学校来  
ていなかった学生で2年留年したが、3年目で臨床福祉校へ入学したが今  
はちゃんとやっているようだ。2年にも無事に進級して学校にもちゃんと  
来ているようだ。もう無理だろうと言っていた学生だったのだが。

事務局工藤            だから一概に駄目とは言えないところがある。教員と波長が合えばそう  
いうこともあるのだろう。

本日は貴重なご意見、誠にありがとうございました。